

南あわじ市 平成 22 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(事業 委託 補助用)

I 基本事項

| | | | |
|-------------------|---|--|--------------|
| | | 整理番号 | 1321 |
| 事業名 | うずしおマラソン全国大会補助金 | 予算科目 | 会計 一般会計・1 |
| 担当部課名 | 教育部 生涯学習文化振興課 | | 款 教育費・10款 |
| 電話 | 0799 - 37 - 3020 | | 項 保健体育費・6項 |
| 事業分類 | <input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務 <input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務 | 法的根拠 (法令、条例、要綱等) | 目 保健体育総務費・1目 |
| 南あわじ市総合計画 施策体系 | まちづくりの柱 | 人づくり_知恵あふれ_郷土愛が満ちるまちづくり__ | |
| | まちづくりの目標 | 情熱と生きる喜びあふれるまち【生きがい】 | |
| | 施策目標 | 仲間との絆を深め、情緒やセンスを磨く、芸術文化活動・スポーツ活動を盛んにする | |
| 該当する事業について「 」を選択 | | 施策的事業 | 業務委託 |
| | | | 負担金補助 |

II Plan (計画、事業内容、事業背景)

| | | | |
|------------|---|--|------------------|
| 事業概要 | 目的 | 対象(誰を・どのような状況の人に) | |
| | | 全国各地のマラソン愛好者 | 対象人数(人) 3,000 |
| | | 意図(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) | |
| | | 全国各地からマラソン愛好者が南淡路に集い、ランナー相互の交流と淡路島のPRを目的とする。 | |
| | 実施内容 | (何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか) | |
| | 大会当日は、鯛汁やにゅう麺のもてなしや、素麺等のお土産を通して地元食文化や地場産業に触れていただく。コース種目は、ハーフ(約21km)、10km、5km、2kmで性別、年齢別に11部門に分け実施する。第30回という節目の大会であるので、連続出場されたランナーやこれまで大会に携わってこられた役員の方々や団体へ記念の表彰を行う。また30周年記念誌を作成する。 | | |
| 背景 | (どのような現状・課題・要望によって事業が実施されるに至ったか、他の自治体の動向など) | | |
| | 大鳴門大橋の開通記念に、橋を走って渡ることを目的にマラソン大会を淡路陸上競技協会、神戸新聞社淡路総局らと、旧南淡町等が連携し事業を開催した。ただし開通記念時は徳島県境までの往復を歩くこととなる。開通後も旧南淡町では、町おこし事業の模索中であり、たまたま淡路陸上競技協会が当時行っていた長距離大会がなくなり、マラソン大会を淡路島で開催させたいという意向もあったことから、事業をタイアップして展開させてきた。南あわじ市となってからも、市民の健康増進、市民と島外の参加者との交流、地場産業の活性化等を目的に、まちおこし事業として取り組んでいる。 | | |
| | 事業実施主体 | <input checked="" type="checkbox"/> 市直営 <input type="checkbox"/> 民間・その他 () | |
| | 事業期間 | <input checked="" type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 22 年度 <input type="checkbox"/> 設定なし | |
| 合併協議事務調整内容 | (合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯) | | |
| | <input type="checkbox"/> 旧緑町 <input type="checkbox"/> 旧西淡町 <input type="checkbox"/> 旧三原町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から | | |

Ⅲ Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

| 事業に対する 目標の設定 | 指標名 | 大会参加人数 | | | | | 指標単位 |
|--------------------|-----------------------|---------|---------|---------|--------|--------|------|
| | | | | | | | 人 |
| | 指標説明 (指標算出 方法等) | 大会参加人数 | | | | | |
| | | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | |
| | 目標値 | 3,000 | 3,000 | 3,000 | 3,000 | | |
| | 実績値 | 2,144 | 2,377 | 2,372 | 3,128 | | |
| | 達成度 (%) | 71.5 | 79.2 | 79.1 | 104.3 | - | |
| 目標値設定 の考え方 | 大会参加人数割合 | | | | | | |
| 資源配分 (インプット) | | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | |
| | 直接事業費 (千円) | 15,433 | 15,058 | 14,167 | 17,010 | 0 | |
| | 前日経費 | 163 | 170 | 21 | 0 | | |
| | 大会経費 | 13,365 | 12,641 | 11,317 | 15,066 | | |
| | 事務費 | 1,435 | 1,301 | 1,308 | 1,944 | | |
| | 予備費 | 470 | 946 | 1,521 | 0 | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | 財 源 (千円) | | | | | | |
| | 国 | | | | | | |
| | 県 | | | | | | |
| | 起債 | | | | | | |
| | その他 | 10,633 | 10,858 | 9,967 | 11,510 | | |
| | 一般財源[A] | 4,800 | 4,200 | 4,200 | 5,500 | 0 | |
| | 人件費(正規職員)[B] (千円) | 7,224 | 6,696 | 6,768 | 9,864 | 0 | |
| | 平均人件費(1日当り) | 30.1 | 27.9 | 28.2 | 27.4 | 27.4 | |
| 事業量1(事業に要した日数) | 120 | 120 | 120 | 180 | | | |
| 事業量2(事業に要した人数) | 2 | 2 | 2 | 2 | | | |
| 年間経費([A]+[B]) | 12,024 | 10,896 | 10,968 | 15,364 | 0 | | |
| 「目的」対象人数1人当り経費 (円) | 4,008.0 | 3,632.0 | 3,656.0 | 5,121.3 | 0.0 | | |
| 経費に関する 補足説明 | 平成22年度まで決算額。 | | | | | | |

IV Check (事業の自己評価・一次評価)

| | | 単位 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | |
|-----|---|---|---------------------------------------|----------------------------|---------|---------|--------|---------------------|
| 達成度 | 目標達成度 | % | 71.5 | 79.2 | 79.1 | 104.3 | - | |
| | (事業目標の達成度分析、問題点・課題などを記入。) 過去最多の参加者を迎え、前回から756名増であった。実行委員等の自主的なポスターや募集要項等を活用した広報活動を年々充実してきたこと、最後の開催であることが成果の現れと思う。しかし高速料金の安価により日帰り客が増加し、宿泊観光客は激減してきた。これまでも約63,000人のランナーが市民と交流も行ってきた。実行委員会として、大会当初の目的が達成されたことにより、第30回で終了となる。 | | | | | | | 自己評価 (5点評価) 4 |
| 有効性 | (住民満足度の分析、問題点・課題などを記入。) 健康づくり、市民と島内外との交流、全国に南あわじ市をPR、地元産業の活性化等の有効性はある。しかし特定地域に偏った事業展開であると見られがちであるため創造的、発展的な取り組みをし、今後とも南あわじ市としての取り組みによる事業の有効活用を図りたい。 | | | | | | | 自己評価 (5点評価) 3 |
| | 事業単価 | 円 | 4,008.0 | 3,632.0 | 3,656.0 | 5,121.3 | 0.0 | |
| 効率性 | (効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。) 市内の同時期に開催される長距離走大会の整理が進み、参加者が参加しやすいスポーツ環境にはなった。ゲストの変更、実行委員会構成をスリム化、見積入札の実施、参加記念品等の縮小、事務局代行業務による人件費削減等の支出削減を図った。しかし不景気の影響から、協賛金が大幅減額のため、より一層の経費の節約を取り組み、魅力ある大会づくりが必要である。 | | | | | | | 自己評価 (5点評価) 3 |
| | 公共性の高低 | <input type="checkbox"/> 高 | <input checked="" type="checkbox"/> 中 | <input type="checkbox"/> 低 | | | | |
| 必要性 | (公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 近年、健康づくりとしてマラソンやウォーキング等が人気を得ている。また淡路島や南あわじ市の魅力を発信できる機会でもあるので、観光産業の振興としても必要性はあると感じる。 | | | | | | | 自己評価 (5点評価) 4 |
| | 総合評価 | 自己評価をふまえた現状分析 本大会の目標が達成されたことから、第30回を機に終了した。過去最多の参加者を迎え、無事に事故もなく盛会のうちに終えることができた。 合併6年目を迎え徐々に南あわじ市としての取り組み姿勢ができ、同時期に市内で開催されていた似たスポーツ大会も精査され、より市民が参画しやすく、また参加しやすい事業になりつつあったことが、今回の成功に繋がる結果と思える。実行委員会組織もスリム化され、市イベントの取り組む組織作りになっていたと思う。非常に多くの方に惜しまれた大会となったが、今後南あわじ市を発信するために、市民等からの意見をご意見を頂きながら模索していきたい。 | | | | | | 評価グラフ |

V Action&Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

| | 平成23年度にできる改善・改革 | 平成24年度以降にできる中期的な改善・改革 |
|------------------------------|--|---|
| 今後の方向性とその理由 | <input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し | <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し |
| | 本事業については、所期の目的が達成されたことから第30回大会をもって廃止する。 | |
| (現状維持以外の改善方法) | | |
| 改善によって期待される効果 (現状維持以外の場合) | 効果(アウトカム)面 | 効果(アウトカム)面 |
| | | |
| | コスト面 | コスト面 |
| | | |
| (現状維持の場合も記入) | 仮に事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面) プラス面：事業に係る経費の削減 マイナス面：地元の経済効果が下がる | |